

《履修上の留意事項》保健医療機関での実習希望学生（3年次、4年次）は履修することが望ましい。

《担当者名》巻 康弘 maki@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

人の暮らしの中で、病と出逢い医療を必要としながら生きていく。医療技術の発達に伴い暮らしの中に医療があることが当たり前になりつつあるが、同時に、ゆらぎが生じる局面も少なくない。このゆらぎは、家族・チーム・組織・地域社会などの環境との関係で生じることもあり、構造的な理解が必要となる。

そこで、本講義では、講義に加え実践例をもとに、クライアントや組織・地域が抱える課題と背景要因を構造的に捉え、人と環境に働きかける医療ソーシャルワーク実践について、教員と学生らでの検討を通じ、各々の考えを深めていくことを目指す。

【学修目標】

1. 病と共に生きるクライアントの生活課題・ニーズを説明できる。
2. 医療ソーシャルワーク業務に関わる実践事例を通じ、医療ソーシャルワーク実践について説明できる。
3. チーム医療の構造と医療ソーシャルワーカーの役割を説明できる。
4. 病に関わる生活課題や医療ソーシャルワーク実践事例等を通じ、自らの考えを述べるができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	病者の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・病を持つことによって生じる生活課題を説明できる。 ・インシデント情報をもとに、病者の生活像を検討することができる。 ・生物-心理-社会モデルをもとに事例を創作することができる。 	巻
2	病者と家族の心理・社会的課題とスピリチュアルペイン	<ul style="list-style-type: none"> ・インシデント情報をもとに、病者と家族の生活像を検討することができる。 ・療養の局面別にみる心理・社会的課題を例示することができる。 ・スピリチュアルペインについて説明できる。 	巻
3	保健医療を必要とする人とのソーシャルワーク実践の構造	<ul style="list-style-type: none"> ・保健医療を必要とする人とのソーシャルワーク実践の構造を示すことができる。 ・医療ソーシャルワーク実践における実践者の主な役割を例示することができる。 ・事例をもとに実践者の役割を説明することができる。 	巻
4	社会的ハイリスク妊婦をめぐる医療ソーシャルワーク実践	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的ハイリスク妊婦の実情を説明できる。 ・社会的ハイリスク妊婦を取り巻く社会環境を説明できる。 ・社会的ハイリスク妊婦との医療ソーシャルワーク実践について検討することができる。 	巻
5	小児在宅医療(医療的ケア児)における医療ソーシャルワーク実践	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア児や親をめぐる課題を説明できる。 ・小児在宅医療をめぐる課題が説明できる。 ・医療的ケア児や親との医療ソーシャルワーク実践の実際について説明できる。 ・医療ソーシャルワーク実践に関する考えを記述することができる。 	高波千代子(特別講師) 巻
6	医療技術の発達と生命倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・医療資源の配分論について説明ができる。 ・災害トリアージについて説明ができる。 ・医療資源と配分のあり方について検討することができる。 	巻
7	人生の転換期における医療ソーシャルワーク実践	<ul style="list-style-type: none"> ・退院支援における医療ソーシャルワーカーの役割を検討することができる。 ・選考形成支援について説明できる。 	巻

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		・選好形成支援について検討することができる。	
8	高次脳機能障害をめぐる医療ソーシャルワーク実践	・高次脳機能障害の特性について説明できる。 ・高次脳機能障害者を取り巻く社会環境を説明できる。 ・高次脳機能障害をめぐる医療ソーシャルワーク実践について説明できる。 ・医療ソーシャルワーク実践に関する考えを記述することができる。	玉川侑那(特別講師) 巻
9	多職種チームにおける医療ソーシャルワーク実践	・多職種チームモデルについて説明できる。 ・多職種チームの発達段階を説明できる。 ・チームングについて説明できる。 ・信念対立解明アプローチについて説明できる。	巻
10	アドバンスケアプランニングと意思決定支援	・アドバンスケアプランニングについて説明できる。 ・意思決定支援の構造を説明できる。 ・情報共有-合意モデルを説明できる。 ・意思決定局面での支援について検討することができる。	巻
11	人生の最終段階における医療と在宅医療における医療ソーシャルワーク実践	・人生会議について説明できる。 ・人生の最終段階における意思決定ガイドラインを説明できる。 ・在宅医療における医療ソーシャルワーカーの役割を概説できる。 ・尊厳ある人生の最終段階を歩む人への支援について検討することができる。	巻
12	身元保証がない患者との医療ソーシャルワーク実践	・診療契約における身元保証の実状を説明できる。 ・身元保証がない患者の生活課題を説明できる。 ・身元保証がない患者との医療ソーシャルワーク実践を説明できる。 ・医療ソーシャルワーク実践に関する考えを記述することができる。	不動宏平(特別講師) 巻
13	ソーシャルワーカー組織のチームビルドとマネジメント	・ヒューマン組織としての病院組織の特性が説明できる。 ・ソーシャルワーカー組織のマネジメントを概説しSWOT分析に取り組むことができる。 ・組織内でのソーシャルワーク実践について検討することができる。	巻
14	家族支援における医療ソーシャルワーク実践	・医療機関において家族に期待される役割を説明できる。 ・家族支援における医療ソーシャルワーカーの役割を説明できる。 ・家族支援について検討することができる。	巻
15	地域に展開する医療ソーシャルワーク実践	・地域連携の介入のスキルについて説明できる。 ・地域に展開する医療ソーシャルワーク実践の理論と実際について説明できる。 ・職能団体を活用して行う地域活動を概説できる。 ・医療ソーシャルワークが果たす社会的役割についての考えを述べることができる。	巻

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート等記録物(100%)

【教科書】

日本医療社会福祉協会・日本社会福祉士会『保健医療ソーシャルワーク～アドバンス実践のために』中央法規

【参考書】

エイミー・C・エドモントン(2014) / 野津智子訳『チームが機能するとはどういうことか』英治出版
成清美治・竹中麻由美・大野まどか(2020)『保健医療と福祉』学文社
林祐介(2019)『効果的な退院・転院支援』旬法社
井上寿美・笹倉千佳弘(2015)『子どもを育てない親、親が育てない子ども』生活書院
香川智昌(2021)『命は誰のものか(増補改訂版)』ディスカヴァー・トゥエンティワン

【備考】

1. この科目は、教職課程(福祉)では、教科に関する科目の「社会福祉援助技術」に該当する。
2. 医療ソーシャルワークをめぐる最新の情報・状況をもとした授業とするため、授業内容は一部変更の可能性はある。

【学修の準備】

1. 次回の講義のテーマについての事前学習や講義内で指示する課題に取り組む。
2. 特別講師の講義を踏まえ、自分の「考え」をまとめたレポートを作成する。
3. 医療福祉に関する最新動向に関心を持ち、新聞等による情報を把握する。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP 2、4

【実務経験】

社会福祉士、認定社会福祉士(医療分野)、認定医療社会福祉士、介護支援専門員

【実務経験を活かした教育内容】

病院・相談機関での医療ソーシャルワーカー(社会福祉士等)としての実務経験を活かし、実践的教育を行う。